

2022年9月ハイパーカレンダーレポート

9月の気温がどうだったか、天候がどうだったか、といった記憶がないのは、このレポートを書いているのが今日10月25日だからだろう。大分、熊本、姫島の移動と目の前の仕事に追いかけて、悲しいことに、周囲のことをキャッチアップする余裕がなかった。ハイパー研では、9月から中小企業への[テレワーク導入推進セミナー](#)を県下6市で開催、また[AI活用人材育成研修会](#)や[AIコーディネータ育成研修会](#)を実施、教育分野では10年以上にわたり毎年開催している[中学生高校生ICTカンファレンス in 大分2022](#)は全国大会まで続く。そして10月2日には大分駅前での街頭イベント「[おおいたAIフェスタ](#)」において、広瀬知事をはじめ延べ人数約1万人の方々が、AIテクノロジーに触れ合うことが出来た。こうした中で、移動の合間に目にした景色、出張先や姫島でのたくさんの人々との出会い、過ごした時間、語らった時間は、ゆっくりはできずとも豊かで、人生の貴重な彩りと潤いであったことを実感している。

AI等のテクノロジーを学び、スマート農業を造れる人材を育成するために、9月7日、私は大分東高校の圃場にいた。ビニールハウスの中はとても暑いのに、これからいちごのベリーツが育てられる予定で、その日プロファイnderというセンサーを設置した。温度、湿度、酸素濃度、日照度等のデータを取得し、分単位で変動を見る。大分東高校には、農業や園芸を学ぶコースがあり、昨年度から文科省のマイスター・ハイスクール事業の一環でスマート農業を学ぶ授業を行っている。今年度も、来月からベリーツ栽培データ等の応用研究を取り入れた授業を開始する。

[おおいたAIテクノロジーセンター](#)では、AI開発環境を整え、大分県内でのAIビジネスの促進に取り組んでいる。残念ながらコロナの影響により、これまでもほとんどの活動がオンラインに制限されてきたものの、ようやくオフラインでの研修実施にこぎつけることが出来た。AIに関わる人々は、大きく「使う側」と「作る側」の2者に分けることができるが、この2者だけではなかなか折り合いがつかないことが多い。そのため両者の間を自由自在に行き来し、寄り添いながら、欠けている要素を見つけ、人を結びつけて、AIビジネスを促進することのできる人材「AIコーディネータ」の育成が急務となっている。そこで今回、前掲したAIコーディネータ育成研修会を開催、講師には東京大学在学中に起業した株式会社LIGHTBLUETECHNOLOGYの園田亜斗夢氏、地方も含めてAIビジネスの創出に取り組んでいるので、同氏は青森県でテレワークしている。おかげで、定員を超える多様な受講者が集った。企画側の想定とは異なったが、AIを作る側の人々が多く、AIコーディネータを担うのは誰？のヒントを得ることができたように思う。オフラインならではの活発な議論があり、その後の人の交流にも繋がったようだ。

AIにも通づるデータの利活用を推進するためのコーディネータを発掘、育てようというのが、「FOP（Facilitator for Open-data Promotion）オープンデータ高度利活用促進人材プラットフォーム構築事業」である。これは総務省傘下の電気通信普及財団の委託研究であり、その一環としてファシリテーター育成研修を行った。データを取り扱う際に必要となる情報リテラシーの基礎知識を修得し、市民の声に耳を傾けつつ、適切な活用策を練り、技術者や行政をも巻き込んで実現することのできる人材を目指す。講師は協同する九州テレコム振興センターの広岡淳二専務理事が務めた。今後、今回の参加者が実際にファシリテーターを務めるアイデアソンを年度内に企画、実施していく予定である。

（文責：原田美織）